

大学の世界展開力強化事業（平成 30 年度採択） 中間評価結果

大 学 名	東京大学
整 理 番 号	AA02
事 業 名	日米の COIL 型教育を活用した先端ワールド・グローバル工学人材養成プログラム

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価 A⁻	これまでの取組を一部改善することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
コメント	<p>本プログラムは、東京大学工学部及び大学院工学系研究科の一層の国際化に向けて、主に材料系学科とマサチューセッツ工科大学 (MIT) との学生交流と協働教育に関するこれまでの実績を踏まえ、COIL 型教育を導入し高い水準での工学系グローバル人材を育成しようとするプログラムとして実施している。</p> <p>MIT との交流では、オンライン教育である東大-MIT 国際講義と文化を学ぶ M-Skype の実施や、こうした協働教育を基とした MIT との交換留学を実施していたが、当初計画していた内容が MIT 側の組織改編等による国際事業の方針転換によって一部変更を余儀なくされたため、2019 年度に海外相手校として新たにカリフォルニア工科大学とクレムソン大学との COIL 型協働教育をスタートさせることによって COIL 型教育を活用した国際化を進めることとし、その結果、交流学生等に関する派遣学生数については、中間評価実施時までの数値目標を概ね達成している。</p> <p>しかしながら、工学部及び大学院工学系研究科全体として取り組んでいるプログラムという要素が弱く、工学部全体に波及する実効性のあるプログラムの展開が望まれることや、今後の事業展開における MIT との協働教育プログラムについて、再構築する視点も必要である。また、東大-MIT 国際講義に参加する学生数確保のための努力は認められるが、COIL 型教育科目の日本人学生及び外国人学生の受講者数、中・長期の外国人学生の受入数は目標を下回っており、目標達成に向けた計画と取組がこれからの課題である。この他には、日本人学生の外国語力を高めていくための COIL 型教育を含めたシステムティックな方策や有効な事業評価システムの実施、学生向け講義の英語化は急務であり、迅速な対応が求められる。</p> <p>最後に、今後も本プログラム終了後の継続的な実施を見据えた事業計画の策定と安定的な財源確保に努め、学内及び関係機関との質保証を伴う国際教育連携の推進と、将来の我が国の更なる発展に向け積極的なプログラム展開に取り組まれることを期待する。</p>